

地域づくりネットワーク埼玉県協議会会員情報

団体名	川越蔵の会（川越市）	
DATE	代表者	小峰 春彦（こみね はるひこ）
	事務局及び情報誌等送付先	
		〒350-0062 埼玉県川越市元町1-12-2 本町の長屋
	メールアドレス	jimukyoku@kuranokai.org
	電話番号	049-222-2330
	ホームページ	https://kuranokai.org/
	構成員	234人（男 152人 女 79人 その他3）
	活動日	不定期
	活動場所	主に本町の長屋（事務局）
	情報誌	蔵詩句たいむす（年4回発行）
設立のきっかけ	蔵造りの町並みが残る商店街を守ろうという機運が高まる中、昭和56年にいくつかの建物が市の指定文化財となりました。また、この町並みを取り上げた市の広報番組が、とある映像祭で受賞しました。これをきっかけとして、昭和58年、当会が発足しました。この団体には、地域の住民だけでなく、市民や専門家など多くの人々が参加しました。	
設立の目的	3つの目標である、(1)住民が主体となった町づくり、(2)北部商店街の活性化による景観保存、(3)町並み保存のための財団形成を掲げて様々な活動をしています。	
活動の内容	主な活動として、歴史的建造物の調査・保存・再生支援、文化財の活用提案、町並み景観に関する助言、商店街や地域団体へのまちづくり支援などを行っています。また、旧鏡山酒造（現・小江戸蔵里）や旧川越織物市場など、川越を代表する歴史的資産の保存活用にも関わってきました。さらに、「川越職人の技体験市」をはじめとする体験型イベントや講演会、見学会、学生支援、景観表彰事業などを通じて、市民が川越の歴史や文化に親しみ、まちづくりに参加する機会を創出しています。専門家や行政、商店主、市民が対等な立場で協力しながら、「百年先へつなぐまちづくり」を目指して活動を続けています。	
表彰実績	平成11年グッドデザイン賞「アーバンデザイン賞」受賞 平成17年第48回埼玉文化賞「社会文化部門」受賞 平成17年 全国まちづくり展優秀活動賞 奨励賞 受賞 平成22年 地域づくり総務大臣表彰 団体表彰受賞	
エピソード	近年、当会が開催している「職人の技体験市」で印象的だったのは、参加した子どもたちの反応です。左官や大工、瓦など、普段の生活ではなかなか触れる機会のない伝統技術を体験した子どもたちから、「またやりたい」「職人さんはすごい」といった声が多く寄せられました。中には、夢中になって職人に質問をする姿も見られました。また、職人の皆さんからも、「技術を伝える貴重な機会になった」との声をいただいています。地域に受け継がれてきた技術を体験を通じて伝えることで、参加者と職人、世代と世代をつなぐ場が生まれていることを実感しています。こうした出会いや交流の積み重ねこそが、地域文化の継承と地域づくりにつながるものと考えています。	
今後の計画目標	川越は、重要伝統的建造物群保存地区である蔵造りの町並み以外にも、保存活用すべき歴史的建造物が数多く存在します。それらの建物を活用していくにはどうすればよいか、引き続き継続的に検討・提案・活動していきます。	
年間行事	4月 川越職人の技体験市 8月 定期総会 9月 長屋バー 10月 弁天大市 12月 時の鐘除夜の鐘 その他、町並み相談所、町並み委員会への出席、視察対応、勉強会、会合（頻繁に）などを実施。	

これまでの歴史	昭和58年 川越蔵の会発足 昭和59年 日本建築学会関東支部との共催により、東京、三田建築会館でシンポジウム開催 昭和62年 「川越の景観にふさわしい」建物、イベント等を表彰する「蔵詩句大賞」をはじめ 平成5年 第16回全国町並みゼミ川越大会開催 平成9年 「蔵の街かるた」発行／川越市で「小江戸サミット」開催 大正浪漫の夢づくり設計コンペに協力 平成11年 グッドデザイン賞アーバンデザイン賞受賞 平成12年 「平成の二畳台目茶室」設計コンペ 平成14年 NPO法人として法人登記 平成16年 地域再生モデル事業受託／都市再生モデル事業受託 平成17年 第48回埼玉文化賞「社会文化部門」受賞 平成22年 総務大臣賞受賞／全国削ろう会川越大会（実行委員会事務局を担う） 平成25年 弁天横丁再生への取り組み開始 平成28年 第6回全国町家再生交流会川越大会 平成30年 歴史的風致維持向上支援法人に認定 令和2年 第42回全国町並みゼミ川越大会開催／弁天横丁再生事業「喜多町弁天長屋」完成
代表者から一言	川越蔵の会が出来て40年が過ぎました（1983年～）。衰退化が進む一番街周辺をどうにかしようと商店街活性化による町並み景観の保存を進めるため蔵の会は活動してきましたが、これほど多くの観光客が来ることを想像できたでしょうか。商業の活性化という点では、一定の成果が得られたとは思いますが、景観の保存という意味では、こちらも一定の成果が得られた一方で安易な模倣ともいえるような建築物が見られるようになってきました。まちづくりは人づくり。地元住民、商人、建築士、川越大好き人間が蔵の会には沢山います。これからの40年、本物のまちづくりを皆さんで協力してつくっていきましょう。
団体PR	蔵造りの町並みとして著名な川越の町並みファンクラブのような団体です。蔵造りに住む人、建築に携わる人、町づくりの研究者等、川越の町に感心をよせる人の集まりです。市内をはじめ、都内や遠く関西まで会員がいます。町づくりを頑張っている人たちの応援や、相談にのっています。